

巻 頭 言

今年度発行する高知工科大学紀要 (Volume 8, No. 1, 2011) は、本学の公立大学法人化を契機として多くの方が苦勞されて一新した昨年の掲載方法を継承して発行することとしました。

高知工科大学教育職員は、教育者として優れた基礎的教育と研究実践に裏打ちされた教育を行ない、科学者として研究成果を挙げ、さらには、それらの成果をもって地域社会・国際社会に貢献することを使命としています。高知工科大学は、事務職員の強力な支援を受け、これらの成果を統合・深化させて「日本にない大学」を実現しています。

教育職員がもたらす教育、研究、地域・国際連携などの成果は、主体的に関わっている者のみのものではなく、高知工科大学、高知県、日本、さらには世界の共有財です。また学生諸君は、自分が行った研究の成果が一部であっても公表されることに大きな喜びを感じます。従いまして、一つ一つの成果は、着実に共有化、即ち公表されていかなければなりません。他方、成果と言っても先鋭的な公表では分かり難い成果もあり、一連の成果を纏めた総説による公表も必要です。教育、研究、地域・国際連携などの成果を共有化する手段としましては学術誌での公表が一般的ではありますが、学術誌への投稿が馴染まないと考えられる成果も少なくありません。本紀要は、そのような成果をも含め、本学で得られた全ての成果について、自由な立場から公表できる場を提供しています。本紀要では、成果を1)テクノロジー、2)社会科学、3)教育、4)地域連携、5)国際交流の5つに分類し、一連の成果について論説した「招待論文」と2010年度の成果に関する「投稿論文」を掲載しました。ご高覧をお願いする次第です。

最後になりましたが、本紀要発行の主旨をご理解の上ご執筆頂いた教育職員の皆様に感謝申し上げますと共に、本紀要発行にご尽力頂いた紀要委員会の野中弘二委員長はじめ委員の方々に感謝申し上げます。

副学長 西郷 和彦